2014 年 6 月 26 日

各位

2014 年 3 月期決算説明会資料及び参考データ集の一部更新について

2014 年 5 月 12 日に開催いたしました「2014 年 3 月期 決算説明会」において暫定値として発表した当社埋蔵量につき、別紙の通り、改めて確定数値をお知らせ致します。

1. 更新ページ

決算説明会資料

・14 ページ「確認+推定埋蔵量の推移及び関連指標」

上記更新ページを含む決算説明会資料は下記 URL よりご参照下さい。

http://www.inpex.co.jp/ir/library/pdf/presentation/Presentation20140512-a.pdf

参考データ集

・9 ページ「埋蔵量・生産量指標」

・12 ページ「確認・推定・予想埋蔵量によるアップサイドポテンシャル」

・13 ページ「埋蔵量の推移」

・59 ページ「確認埋蔵量の推移の要因分析」

上記更新ページを含む参考データ集は下記 URL よりご参照下さい。

http://www.inpex.co.jp/ir/library/pdf/presentation/Presentation20140512-b.pdf

2. 更新内容

別紙のとおりです（数値の変更箇所は下線及び赤字にて表示しております）。

3. 更新理由

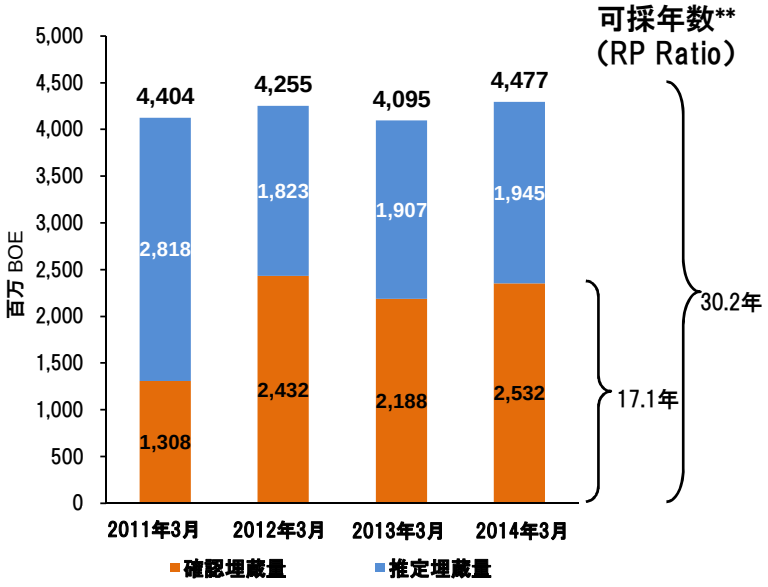
暫定値であった埋蔵量数値が今般確定したため。

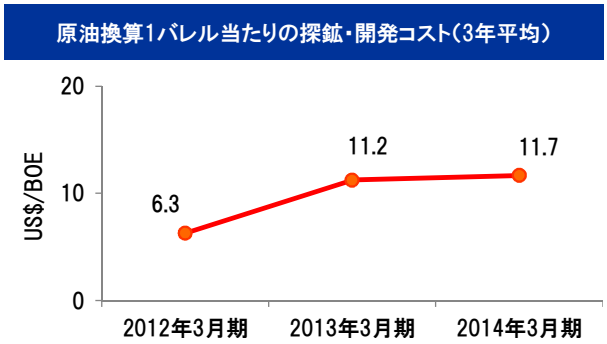
以上

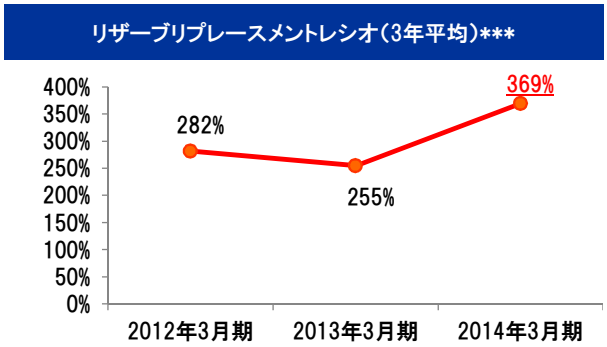
更新前

確認+推定埋蔵量*の推移及び関連指標

INPEX







* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。また、2012年3月期からの天然ガスから原油への換算方法の変更しています。

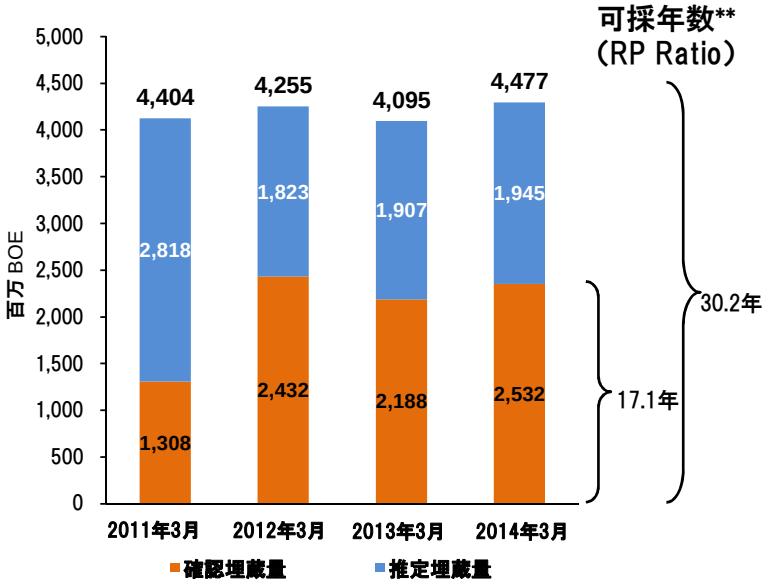
** 可採年数=2014年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

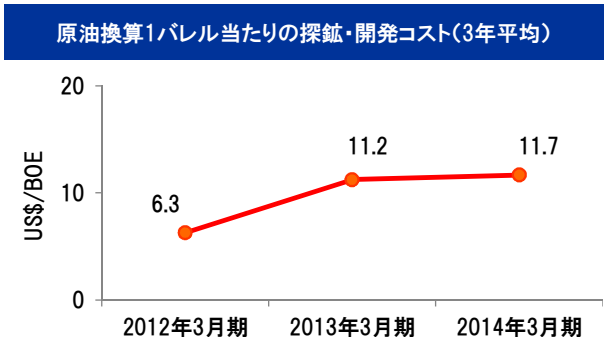
*** リザーブリプレースメントレシオ=期中の確認埋蔵量増加分/期中生産量

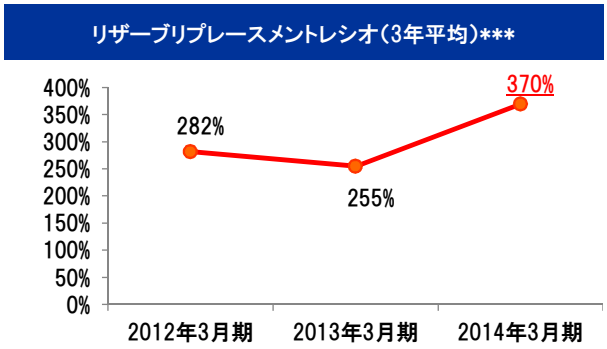
更新後

確認+推定埋蔵量*の推移及び関連指標

INPEX







* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。また、2012年3月期からの天然ガスから原油への換算方法の変更しています。

** 可採年数=2014年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

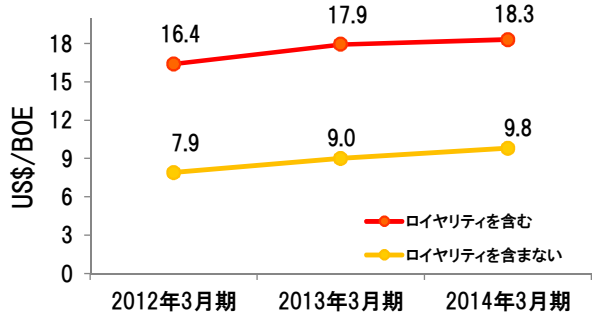
*** リザーブリプレースメントレシオ=期中の確認埋蔵量増加分/期中生産量

更新前

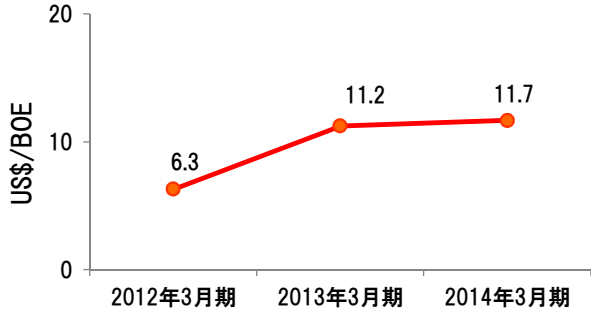
埋蔵量・生産量指標

INPEX

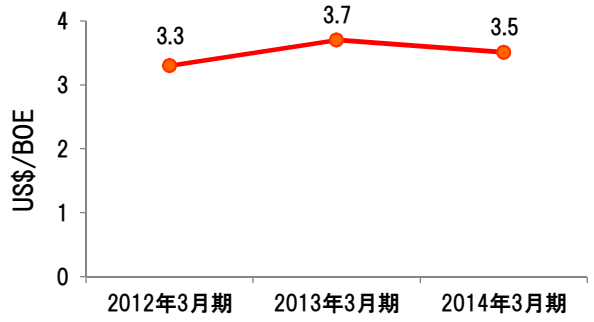
原油換算1バレル当たりの生産コスト



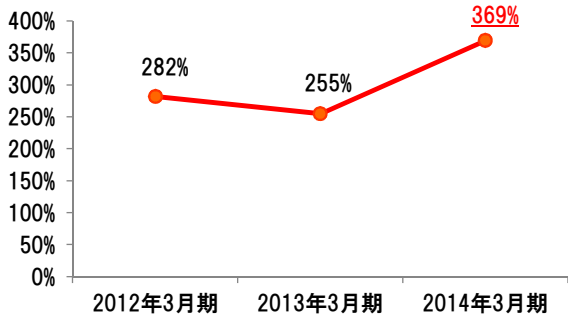
原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト(3年平均)



原油換算1バレル当たりの販売費及び一般管理費



リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)

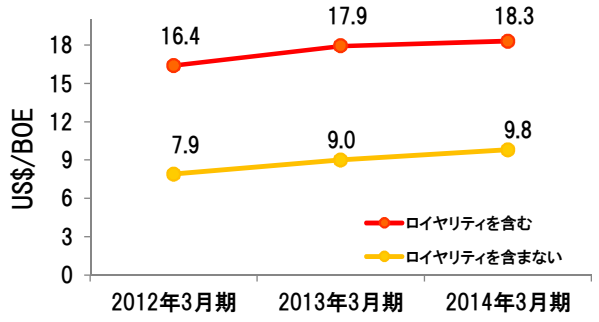


更新後

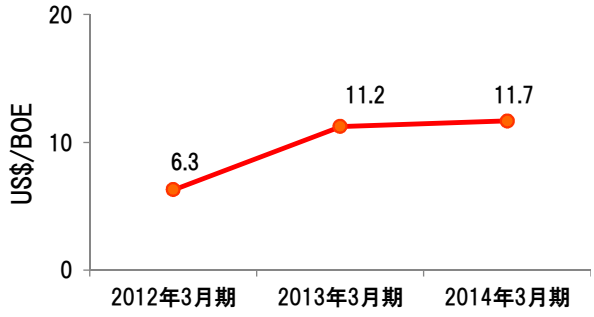
埋蔵量・生産量指標

INPEX

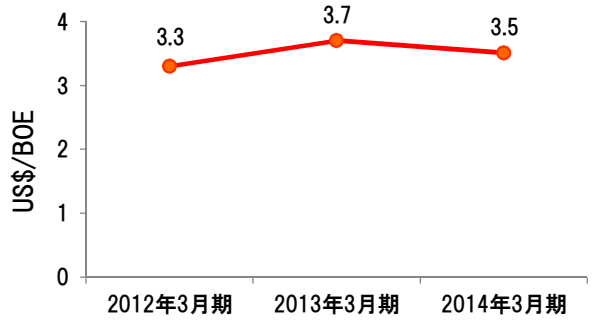
原油換算1バレル当たりの生産コスト



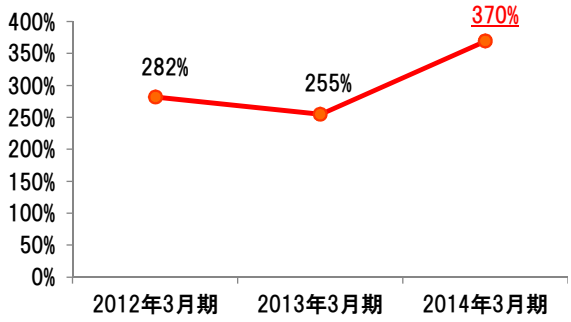
原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト(3年平均)



原油換算1バレル当たりの販売費及び一般管理費



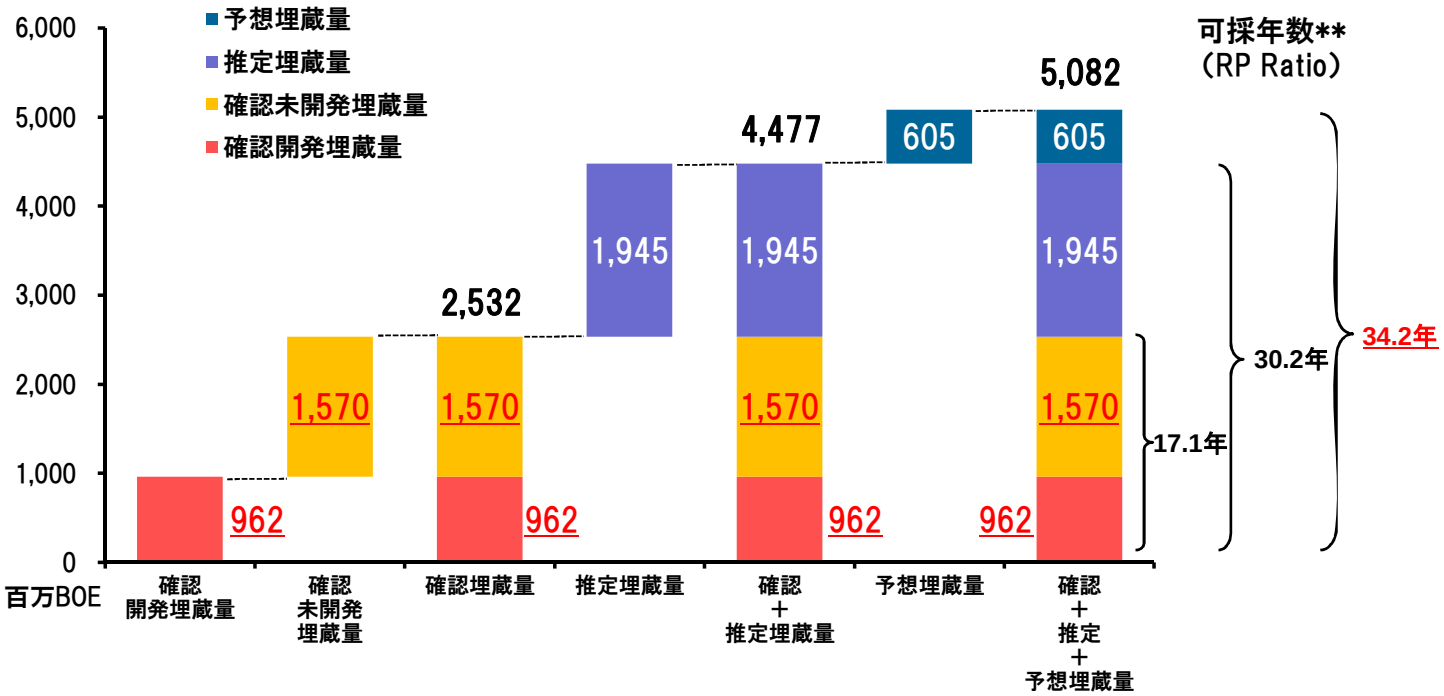
リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)



更新前

確認・推定・予想埋蔵量*による アップサイドポテンシャル

INPEX



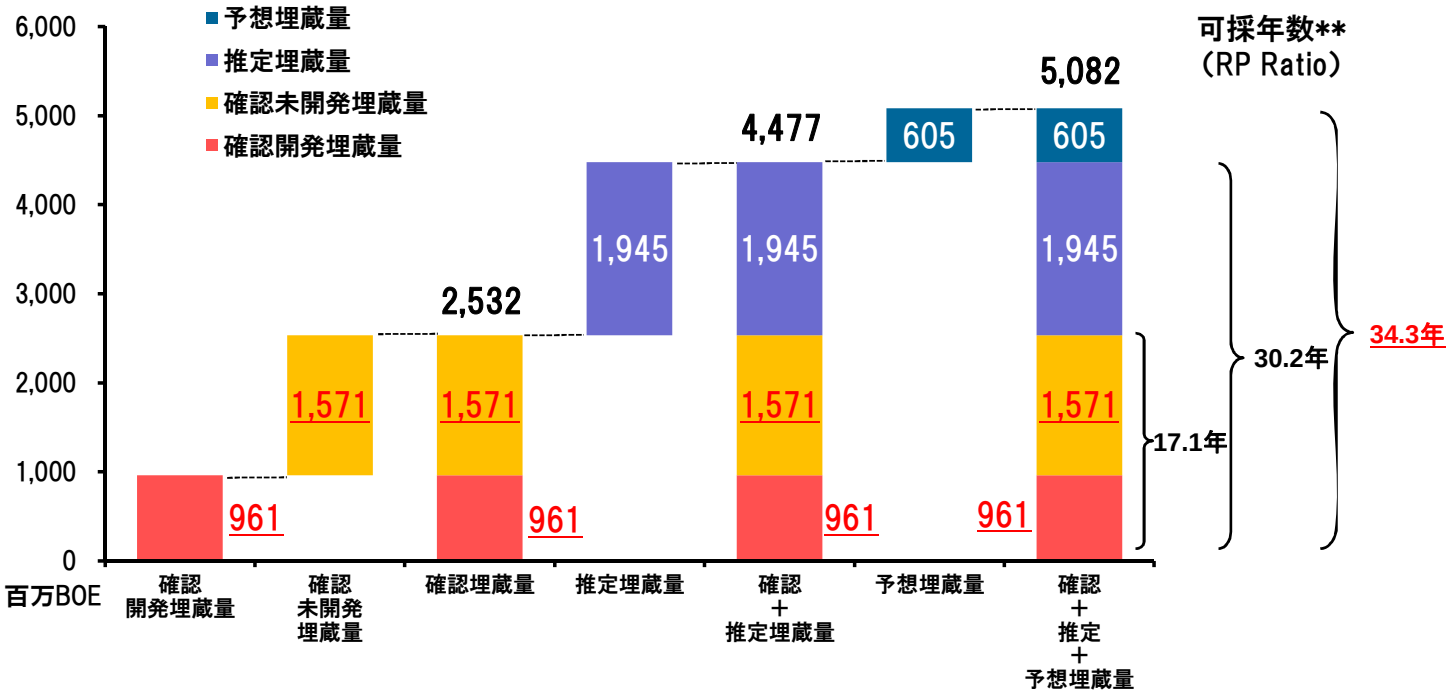
* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定・予想埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。

** 可採年数＝2014年3月末「確認埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量＋予想埋蔵量」／2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

更新後

確認・推定・予想埋蔵量*による アップサイドポテンシャル

INPEX



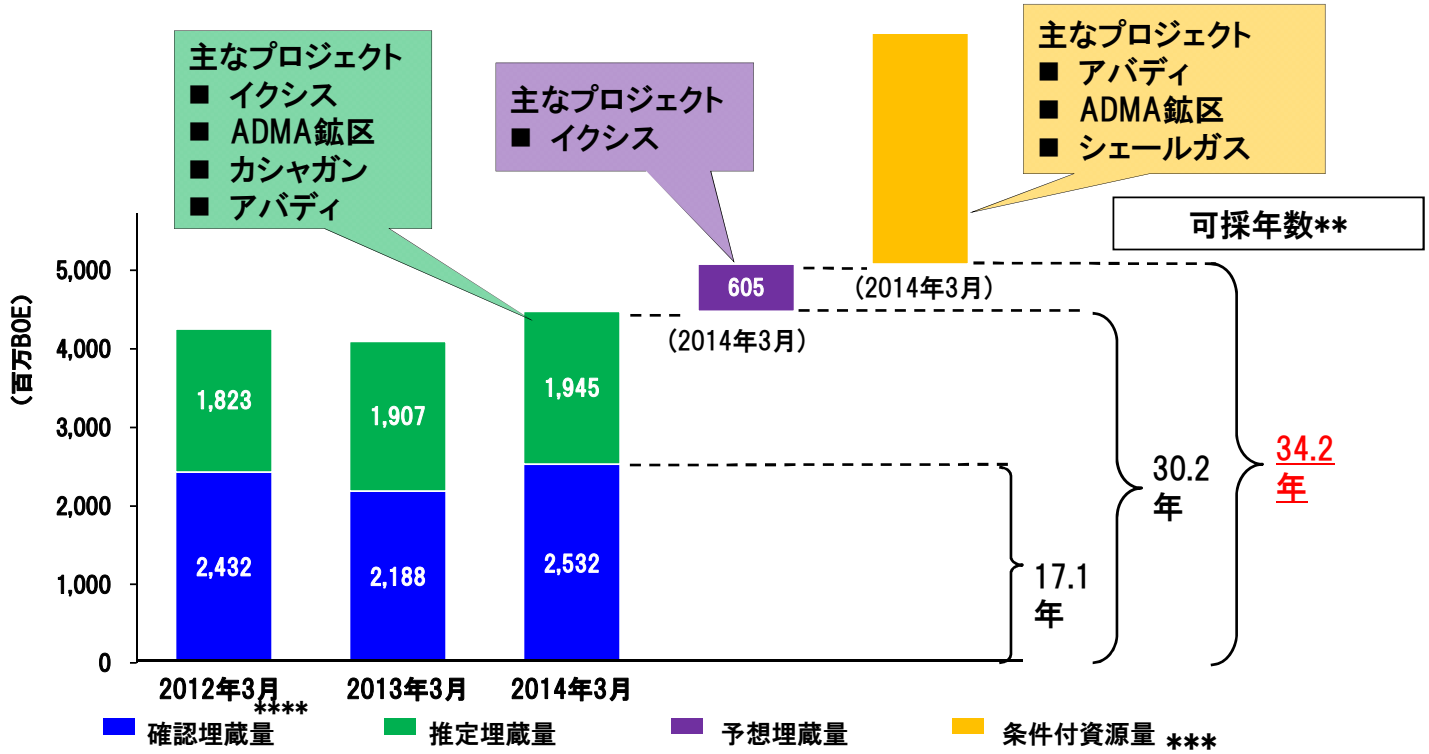
* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定・予想埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。

** 可採年数＝2014年3月末「確認埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量＋予想埋蔵量」／2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

更新前

埋蔵量*の推移

INPEX



* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定・予想埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。

** 可採年数＝2014年3月末「確認埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量＋予想埋蔵量」／2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

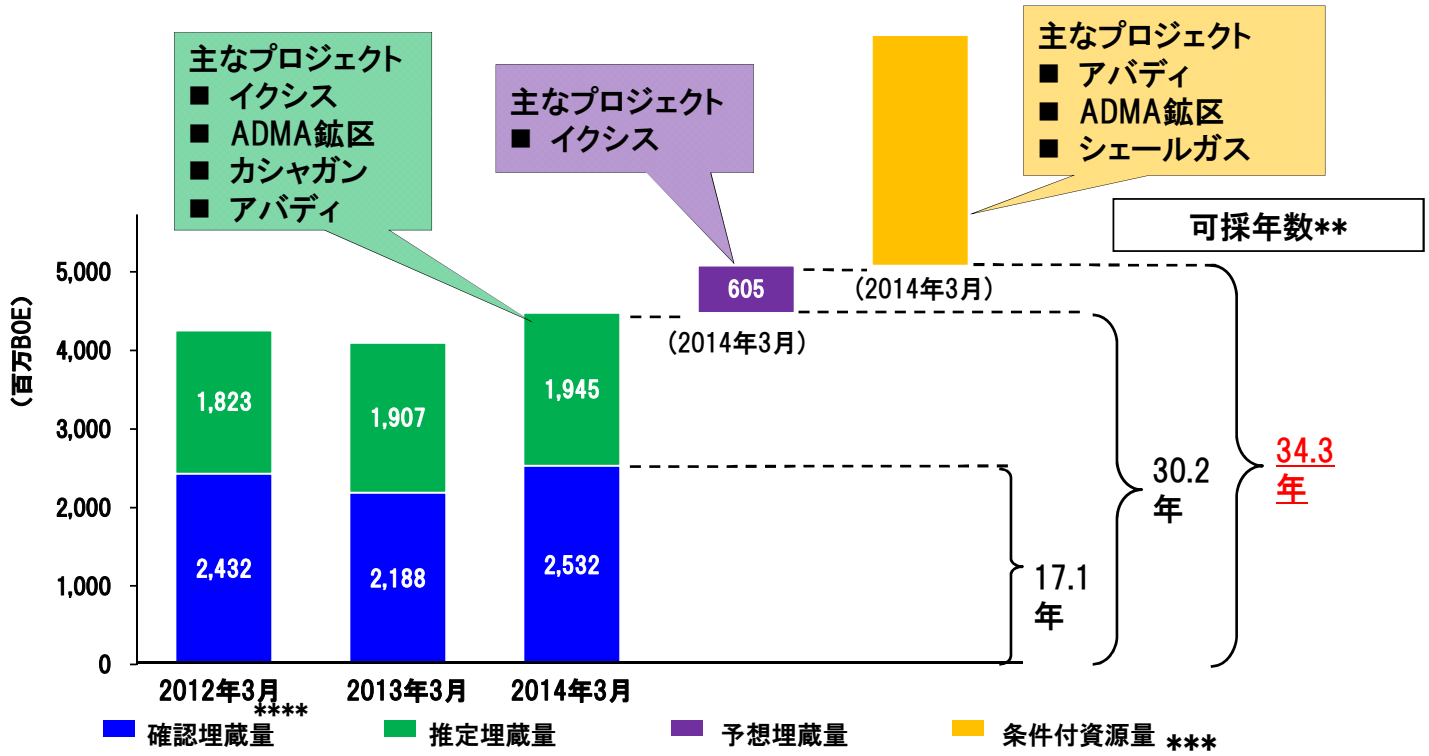
*** 条件付資源量は当社による推定値です。SPE-PRMSの基準によれば、潜在的に回収可能と見込まれる炭化水素量の推定値ですが、現段階では諸条件により経済的に回収可能であると判断することができない資源量を指します。

**** 2012年3月期より天然ガスから原油への換算方法を変更しています。

更新後

埋蔵量*の推移

INPEX



* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。推定・予想埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従い評価・算定しています。

** 可採年数＝2014年3月末「確認埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量」、「確認埋蔵量＋推定埋蔵量＋予想埋蔵量」／2014年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

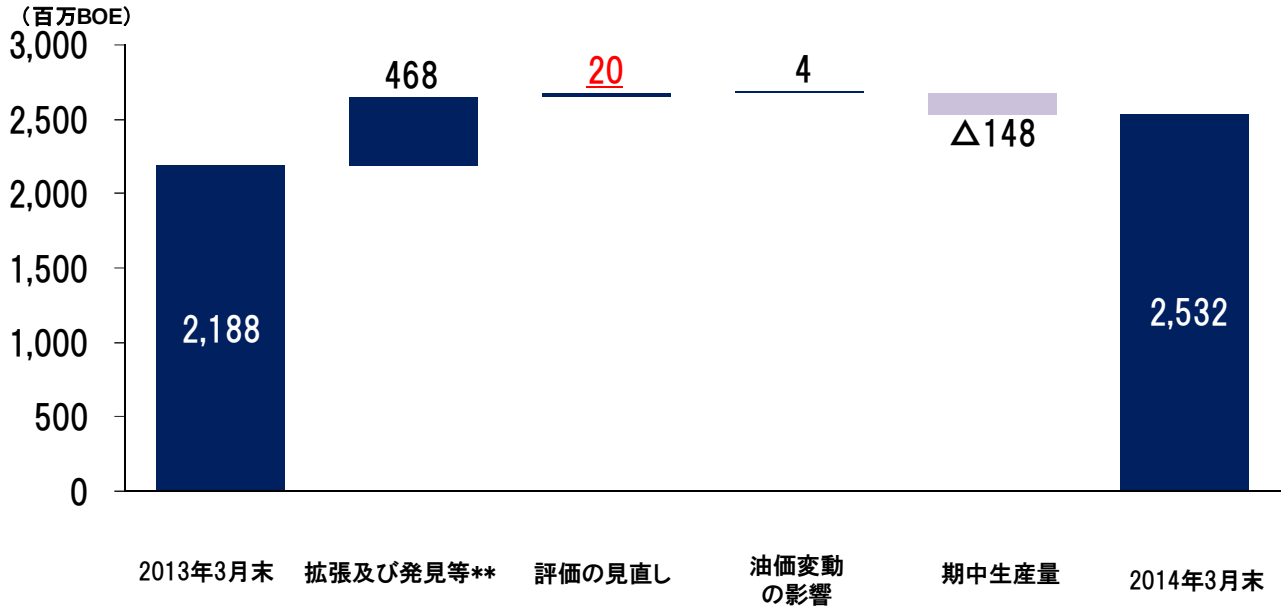
*** 条件付資源量は当社による推定値です。SPE-PRMSの基準によれば、潜在的に回収可能と見込まれる炭化水素量の推定値ですが、現段階では諸条件により経済的に回収可能であると判断することができない資源量を指します。

**** 2012年3月期より天然ガスから原油への換算方法を変更しています。

更新前

確認埋蔵量*の推移の要因分析

INPEX



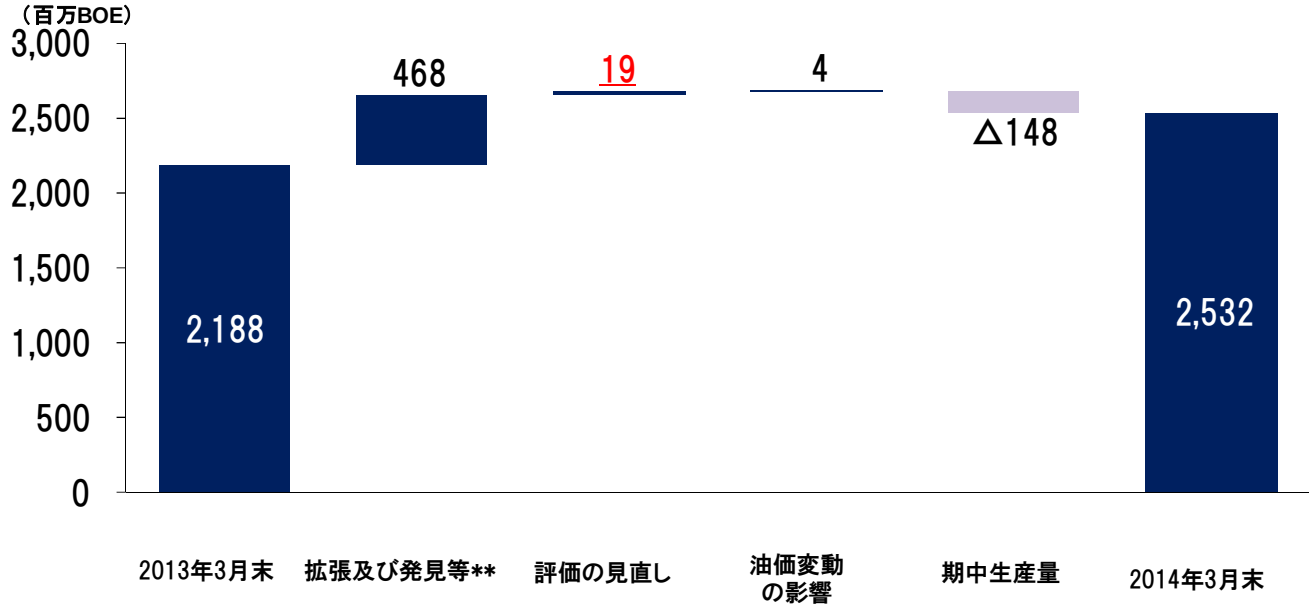
* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer& MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。

** 買収及び売却等を含む。

更新後

確認埋蔵量*の推移の要因分析

INPEX



* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer& MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。

** 買収及び売却等を含む。